

第11回府中市生涯学習審議会会議録

1 日 時 平成30年9月14日(金)午後3時～

2 場 所 府中駅北第2庁舎5階 会議室

3 出 席 者(敬称略)

(1) 委員9名

岩久保早苗委員、奥野英城委員、木内直美委員、岸定雄委員、佐野洋委員、相馬一平委員、寺谷弘壬委員、中村洋子委員、西原珠四委員、三宅昭委員
大谷久知委員、忍足留理子委員、北島章雄委員、関口美礼委員、長畑誠委員は欠席

(2) 職員5名

矢部文化スポーツ部次長、古田文化生涯学習課長、平野文化生涯学習課長補佐、宮崎生涯学習係長、諫山事務職員

4 報告事項

(1) 配布資料の確認

- ・資料1 第10回府中市生涯学習審議会会議録(案)
- ・資料2 第3次府中市生涯学習推進計画(案)
- ・資料3 答申にあたって(案)

(2) 前回議事録の確認

各委員に校正を依頼した前回議事録(案)について、市民に公開することが了承された。

5 審議事項

(1) 第3次府中市生涯学習推進計画(案)について

(事務局) 基本的には主な修正箇所について説明をしていく。なお事前送付したもののから修正した部分については、色がついているので確認いただきたい。

まず全体の修正について2点ほど説明する。1点目は、今回の計画案について、この審議会でも内容を確認していただいた後、デザイナーに入ってもらい全ページデザインをし直す予定である。その際に、参考となる写真は追加になるほか、全体のレイアウト、形、フォントは作り直しとなるため、本日は内容について審議をいただきたい。

2点目は、府中市の計画案では、府中市の上位計画である総合計画に沿った形式にしている。例えば図表番号は入れないことや、施策体系の名称については、基本施策の下の段階の名称は施策ということで統一している。

次に主な修正点について説明する。目次の裏に年度(年)の表記について記載している。具体的には本文の修正箇所をご覧いただきたい。現在は平成表記にしているが、今後修正する可能性があるのでご了承いただきたい。

1ページの「第1章「(1)生涯学習をめぐる国と東京都の動向」についてはボリュームが多かったため、国の動向を中心に記述を整理するとともに、文部科学省による施策説明の図を追加をしている。「(2)府中市の生涯学習」、「(3)策定の目的」については文言修正をしている。

6ページの「(3)策定の目的」については、ラグビーワールドカップ2019、東京2020大会は短期間のもののため、タイトルが適切でないという意見を受け、市民を巻き込める広域イベントの例として示す形に変更するとともに、2つの大会については、大会終了後のレガシーという表現を付け加え、計画期間全体において取り組むにふさわしい目的に変更した。

8ページの「2.計画の位置付けと期間」については、意見を受け、構成とタイトルを変更するとともに、図に補足、文字説明の追加と関連計画を正式名称で記載している。

11ページは、よりわかりやすい正確な表記に変更するとともに、意見を踏まえ12ページに地図を入れる予定である。地図についてはデザイン制作時に追加する。13ページの利用者のグラフについては、中央図書館、郷土の森博物館、美術館の人数について、入場者数と事業の参加者数を足してしまっていたため修正した。

次に18ページの第3章では指摘を受け構成を変更し、「1.基本理念」、「2.基本目標」と独立させた。また表記についても一部修正を行っている。20ページの「3.施策体系」については、重点施策の位置付けがわかりにくいという意見を受け、「施策1」、「施策2」、「施策3」に整理し取り扱いを同じようにしている。

21ページの第4章、「基本施策1」について、併せて別紙「主な追加修正箇所」をご覧いただきたい。こちらは事前送付から修正した主な部分となっている。開館時間についての表現や今後の取り組みの部分について、「夜間10時まで開館し、日中、利用が難しい年齢層への配慮はしていますが、今後は、情報提供の工夫や、講座内容など定期的に市民ニーズを捉えた実態の把握に努める必要があります」という文言に修正している。

23ページの「めざす姿」の表記の修正をするとともに、施策目標の平成38年度の目標値も変更している。目標値については改めて過去5年の参加者の増減率の平均から算出して修正している。

次に24ページの「施策1」について、他の施策とあわせた表記にしてほしいという意見を受け、「新たな参加者を取り込むための学習環境づくり」とし、「施策2」、「施策3」と同じように「主な事業」の欄を追加している。加えて施策の中でも重点であることがわかるように、「新たな参加者を取り込むための学習環境づくり」の横に「重点施策」というマークをつけた。主な事業については内容に大きな変化はないが、今後軽微な文言の修正を行う場合があるのでご了承いただきたい。

続いて30ページの「基本施策2(2)めざす姿」について表記を修正している。次に32ページの「施策1」についても表記の仕方を変更すると同時に、取組の表の中の書き方としてより正確なものに変更するために、ラグビーワールドカップ2019や東京2020大会についての取り扱いを「地域を巻き込む大規模イベントの主要な例」に改めている。34ページの「施策2」については、生涯学習ボランティア、社会教育関係団体、学校の地域連携活動の表記が抜けているという意見を受け追加した。36ページも同様の追記を行っている。

38ページの「基本施策3」についても表記をわかりやすくするとともに、「めざす姿」の書き方を改めている。40ページの「施策1」も、他の施策と同様の記述に変更するとともに、広報の手段について、具体的過ぎた点を改め、より一般的な方向性を示す記述に差し替えている。加えてラグビーワールドカップ2019や東京2020大会の記述も改めた。

41ページの「施策2」については、別紙「主な追加修正箇所」2段目の課題についての対応策の部分を「講座内容を共有し、市民に発信するなど、地域ニーズを捉えた事業展開が求められます」に修正した。43ページの「施策3」については、社会教育関係団体の表記を文章に追加している。46ページのPDCAサイクルについては、ActionをActに修正している。

資料編については52ページについての意見を受け、調査時点での府中市の18歳以上の性別、年齢構成のグラフを2つ追加した。

(会長) 委員の指摘でかなりよく修正されたと思う。教育長に答申書を提出するため、本日が最後の審議となる。整合性がないところなどがあつたら、代案を示していただき、訂正できるようなら訂正したいと考えている。どのページからでもいいので、お気づきのところから始めたいと思う。

(委員) 審議の方向性をきちんとしてほしい。

(会長) 方向性は、時間の問題で変えるのは難しい。言葉の違いなどをご指摘いただきたい。時間が限られているので、全体の内容についての審議はできかねる。

(事務局) 昨年から委員の皆さまには審議をいただく中で、今日までの積み重ねがあつたものと捉えている。今回の生涯学習審議会が最終回となり、来月には答申書を提出していただく。今日の目的としては、素案について文言や表現等で気になる点があればご意見をいただき、軽微な修正をしていただき、章ごとに審議を進めていきたいと思う。

(会長) では章ごとに進めていくことにする。第1章で何かご意見があるか。

(委員) 以前の資料には、文部科学省の生涯学習に関する資料が載っていたがどうしてなくしたのか。これから8年間、10年間の生涯学習のエッセンスがそこに書かれていたが、それをなくしてしまつたら、推進計画の基礎がなくなってしまうのではないか。

(事務局) 確かに細かく丁寧な文部科学省のホームページの内容が記載されていた。しかし、章の中で国における考え方や位置付け等が記載してあるので、削除しても補完できるものと考えている。なるべく市民の皆様がわかりやすく計画が読めるように、資料を1つにした。

- (委員) 文部科学省の資料は、今後10年の生涯学習をどのように設計していくか考え方が書かれているので残すべきだと思う。私はこれがエッセンスだと思う。これに基づかないと府中市の計画は効果的になり得ないと思う。
- (会長) 少なくともこの表を入れた方がいいということか。
- (委員) そうである。
- (会長) のちほど検討する。
- (委員) 6ページ策定の目的について、これから8年の府中市の生涯学習をどのような目的でやるのかを書けばいいので、具体的な小見出し的なことは必要ないのではないか。この中で一番大事なのは、市民協働が市の理念になっているので、生涯学習もその観点から進めていくことである。生涯学習というのは市民の一人一人の人生の豊かさとか、生きがいをもたらすことも大切で、さらに学習を地域づくりに繋げるということを書けばいいので、イトウのようにあまり具体的なことを書く必要はないと思う。
- (会長) 平成31年度から始まる計画なので、ラグビーワールドカップ2019については入れておいてもいいのではないか。
- (委員) それは目的ではなく中身なので、目的という項目で書くべき内容ではないと思う。目的の部分はあまりにも長すぎる。
- (会長) のちほど検討する。
- (委員) 8ページの計画の位置付けと期間だが、位置付けを「位置づけ」と書く方がよいと思う。できるだけわかりやすく書かないと、違和感を感じるのではないか。もう一つ、表の部分で「生涯学習分野の個別計画」と記載されているが、個別計画自身が第3次府中市生涯学習推進計画ではないか。
- (事務局) 「位置づけ」の文言については検討したいと思う。関連計画については、あくまでも分野で捉えている。第3次府中市生涯学習推進計画が中心とはなるが、それと関連した計画としてそれぞれのセクション別で個別の計画があると考えている。
- (委員) もう一つ、連携の矢印の部分に「横串での施策実施」とある。こういう言葉はあまりにも専門家や業界の言葉のように感じるので、「連携」でいいのではないか。できるだけ市民の皆様が読んで違和感を感じない表現にしていきたい。
- 9ページ計画策定の体制は、中身として体制のことを書いていないと思う。どういう意図で書かれたのか。
- (事務局) 今回第3次府中市生涯学習推進計画を策定する上で、「体制」という言葉が気になるのかと思うが、策定するにあたって審議会の委員の意見を聴取し、それを踏まえてこの計画が作られているためこういう表現になった。
- (委員) 体制が書いてあるわけではなく、どのように作ったのかが書いてあるのだと思う。
- (会長) 検討する。
- (委員) 9ページ1行目に、「本計画の策定に際しては、府中市生涯学習審議会において、計画の方向性や取組など、計画全般にわたり協議及び意見交換を行い、素案を作成し答申しました」と書いてあるが、意見交換はしたが、素案を作成し答申したというの

はどうかと思う。

(会長) 素案を検討したと思う。

(委員) もちろん検討した。もし素案を答申するのであれば、審議会の議決を必要とするような事項ではないか。

(会長) 「素案を検討しました」ではどうか。

(委員) その方が良い。

(事務局) 審議会の皆様に素案を諮問しているところなので、このような表記をさせていただき、最終的に素案として答申するという体制になっている。この表現については、市が計画を立てるにあたって全てこういう形としているため、ご了承いただきたい。

(会長) 言葉を後で変更するということが。

(事務局) 今、皆さんに見ていただいている案が素案になる。それをもとに計画の策定という形にもっていく。そのためにこの11回の審議会があり、委員の皆さまには、結果として答申をいただく。市のどの計画であっても、流れは同じである。

(会長) 「作成し」というのが引っ掛かっておられるので、後で変更することもあり得るということか。

(委員) これが答申案か。

(委員) 素案というのはこのことか。

(事務局) 素案イコール答申案である。これに会長からの「答申にあたって」を添付し教育委員会に答申する。

(委員) 答申に基づいて計画が策定されるのか。これはあくまでも素案ということか。

(事務局) 手続き的には議会やパブリックコメントを加えて、市民の声をいただいて最終的に計画として策定するという流れになる。そのおおもとの案を作っていたのが審議会の審議内容である。

(委員) そうすると「本計画は、この答申に基づき策定しています」ではないか。

(事務局) これは実際に計画ができあがった時の言葉である。現状は答申前だが、これが成果物になった時の表現として書かせていただいている。皆さんに作っていただいたものを元に最終的に成案として計画ができる。

(中村委員) 最終段階の言葉でここでは書かれているということか。

(事務局) そうである。

(委員) この案はパブリックコメントに出されるのか。それは審議会の案として出されるのか。

(事務局) 審議会の答申を基に市が作成し、パブリックコメント手続をする。

(委員) 13ページの「(2)生涯学習系施設の利用状況」についてだが、参加人数や利用状況が書いてあるが、もう1つの重要な点は社会教育関係団体の数や利用状況である。文化センター、生涯学習センター、この2つの典型的な市民の生涯学習施設をぜひ入れてほしい。ある意味では拠点、中心となっている。もう1つ社会教育関係団体というのは、文化センターなどを利用して活動する非常に重要なファクターになっている。

- (事務局) 確かに市の生涯学習の拠点施設である学習センター、並びに市民の身近な活動拠点である文化センターについて、我々もそのように認識している。今回は生涯学習系施設ということで、個別の活動の状況を書くのはどうかという部分もあるが、検討したいと思う。
- (委員) 元号が途中で変わるので、西暦をカッコ書きの中に付け加えるのは難しいか。
- (会長) 加えた方がいいと思うので、案を言ってほしい。
- (委員) 例えば8ページ(2)の表である。文章に入れると見にくくなるが、表や図には西暦の年数をカッコ書きで入れておいた方が見やすいと思う。平成の次の元号になったときに、そのほうがわかりやすいのではないか。
- (事務局) 目次の裏ページに米印で年度の表記について記載してある。市の法制文書課に確認をしてこのような表記になっている。8ページを例にしてみると、平成31年など決まっているところまでは、平成28年や平成29年と記載し、それ以降は平成38年(2026年度)と書くような形に統一している。
- (会長) 煩雑にならない限り私も入れた方がいいと思う。
- (事務局) 一律で見たときには西暦や平成で記載した方がわかりやすいと思うが、色々な計画が策定途中なので、整合性を取りながらわかりやすい表現を検討していきたいと思う。
- (会長) 次に第3章について、何かあるか。
- (委員) 20ページ施策1のタイトルがしっかりこない。「新たな参加者を取り込むための学習環境づくり」とあるが、市民の皆様にとって、「取り込む」という表現がどう思われるか、違和感がある。生涯学習を始めるきっかけづくりなど、もっとわかりやすい言葉にしてほしい。
- (会長) どういう言葉がよいか。
- (委員) 「新たな参加者を取り込むための学習環境づくり」が重点施策として出ているが、ここがほとんどわからなかった。何をイメージして書かれているのか。
- (会長) この府中市の計画に加わってこなかった、あるいは加われなかった人々が新たな参加者となるが、他の言葉で何かあるか。
- (委員) 生涯学習活動というのは多岐に渡っている。府中市の事業に参加しなくても、民間の生涯学習関連で学習している人はたくさんいる。
- (会長) それも生涯学習の中に入っているし、1人でやることも入っている。
- (委員) それを入れると本当にわからなくなってしまう。
- (会長) 何かいい言葉がないか。
- (委員) 「新たな参加者になるきっかけづくり」などとしてはどうか。内容や作者の意図は違うのかもしれないが。
- (委員) 前回もこのタイトルが他と異質な感じがすると申し上げた。新たな参加者を増やしていこうという意味だと思うが、「取り込むための」という言葉が違和感を覚える。「取り込む」は視点が違う感じがする。
- (委員) 書いてある施策が行政側からみた目線になっているから、「取り込む」という表現

になっている。市民からの目線になって、「取り込む」のではなく、「参加者が参加しやすいような新しい事業」という書き方になると思う。

(会長) 「新しく参加しやすいような学習環境づくり」という言葉でいいか。

(委員) 参加者を「取り込む」のではなく、「募る」という言い方をしたらどうか。市民から見たらこういう言葉になるが、これは行政側からの言い方だと思う。市民の方からみれば、募ってくれている、そういう場所を作ってくれているということになると思う。

(委員) 新たな参加者を主語にして、「新たな参加者が増える」はどうか。

(会長) 「新たな参加者が増加するための」など、そういうことも考えて検討する。

(委員) 「新たな参加を促すための学習環境づくり」などの方が、むしろわかりやすいと思う。参加者というと第三者的な感じがする。

(会長) 他のページにも似たような言葉があるのではないか。「新たな参加を促すための学習環境づくり」でいいか。

(委員) 「誰もが参加しやすい学習環境づくり」はどうか。

(委員) ここは「誰もが」ではなく、ターゲットが絞られている。新たな参加は入れたいが、もう少し易しい言葉を使いたい。ここはトピックなので、トピックの言葉は少し慎重にみてもいいのではないかと思う。

(委員) 環境づくりなので、あくまで頑張れる場所をつくる、皆がスムーズに活動できるような環境づくりが市の立場だと思うので、そのスタンスをうまく表現した方がいいと思う。

(委員) アンケートの結果に基づいてこの施策が出てきていると思うが、アンケートの結果の理解の仕方が違うのではないか。若年層や働いている世代の、市の生涯学習事業への参加率が低いのは当然だと思う。そういう方たちは別の場所で学習をしているので、無理に市の生涯学習に引っ張ってくるのは施策として成り立つのか。むしろアンケートの結果を見て思うのは、高齢者層、特に現役世代を終えた方の、地域へ戻っての生涯学習が非常に重要だと思う。指標が今は50%くらいだが、80%くらいの方が地域で学習できる環境を作らなくてはいけない。力点の置き方だと思う。

(委員) 「新たな学習者を増やすための学習環境づくり」はどうか。学習者という言葉を使った方がいい。国際交流もそうしている。

(会長) 学習はいらぬのではないか。

(委員) 「施策2」に「市民の特性に合わせた学習環境づくり」とあるが、特性という言葉は抽象的すぎて、あまりよくないのではないか。

(委員) 「多様なニーズ」ではどうか。

(委員) 「市民のニーズに合わせた」はどうか。

(会長) ニーズがない人はどうしたらいいか。アンケート調査結果も出ている。

(事務局) 今の特性の考え方だが、特性というと抽象的にみえるが、特性は年齢や性別の違い、ライフステージの違い、そういう意味での特性として考えている。それに似たような言葉で審議をいただきたい。

- (会長) ニーズではないと思う。
- (委員) 私は特性でいいと思う。
- (会長) 様々な人がいて、それを特性と呼んでいる。これを年齢の差や色々なことで、「すべての人」という言葉で代表させていいのではないかと、という意見もあった。差別と受け取られるような言葉にならないよう、慎重に選ばなくてはならない。
- (委員) 「多様性」という言葉はどこかで使っているか。
- (委員) 「市民それぞれのライフステージにあわせた」といった、ダイバーシティというような意味だが。
- (委員) 「多様な市民」としたらわかるのではないかと。
- (委員) 高齢者、障害者、子育て世代に対してはどういう取組なのか、全く中身がみえてない。事業の中身に含まれているのかもしれないが。
- (事務局) 実際の事務事業については、主要なものしか載せていない。ご審議いただいて対象者の特性にあわせた事務事業をこれから展開していくということで理解をいただきたい。
- (会長) これだけではないということか。特性を捉えてやっているということか。「特性」と「多様な市民」のどちらがいいか。
- (委員) 「多様な市民層」ではどうか。
- (会長) 年齢も条件も付いてくるので、「多様な市民層」はいいと思う。それ以外は何があるか。
- (委員) 4章で質問がある。基本施策1の現状と課題で、アとイという要因があり、その下に書いてあるアについての対応に関して、前よりも後退しているイメージがある。前は「情報提供の工夫や、講座内容の変更・改善、実施場所の見直し」と明記していたが、今回は「ニーズの把握」となっており、一步後退しているイメージがある。24ページの取組で具体的に書いてあるのでいいのかもしれないが、なぜあえて一步引いた表現にしたのか。また、「情報提供の工夫」は要因としてあげられていないのに、なぜここで入れるのか。生涯学習事業が少ないということと、提供時間、実施場所が不向きということが要因ではないのか。
- (委員) そもそも若年層、就労者層の生涯学習事業への参加が少ないのは当然で、それを取り上げて何か施策をしようという方向性にはあまり賛成できない。
- (委員) 私は若年層や就労者層への施策については賛成である。
- (委員) 定年後の活動を準備するためという、その意味はわかるが、もっとも働かなくてはならない時になかなか難しい。
- (委員) 若年層が皆、学校に行っているわけでもない現状がある。
- (事務局) 言葉からすると、トーンが落ちたというのはご指摘の通りだと思う。実は別紙で示してある通り、そもそも施設の開館時間の部分について事実と違う表記をしてしまっていた。学習センターは22時まで開館をしていると、現状を改めて見直しをした。文章としては、利用時間の改善を前提とした中での情報提供という文章に流れているところから、修正をした経緯がある。意見があれば検討したいと思う。

- (委員) 21ページの黄色部分の次の文章だが、「イ 生涯学習に参加できていない層の取り込み」とあるので変更した方がいいと思う。
- (会長) どう言えばいいか。
- (事務局) 文章的なところなので、こちらで検討したいと思う。
- (会長) 4章が他になれば5章にいきたい。
- (委員) 24ページ下の表だが、バトミントンはバドミントンに変更したほうがいい。
- (委員) 23ページのめざす姿で、「年齢や性別、就労の有無などにかかわらず」とあるが、これは入れなくてもいいのではないか。
- (事務局) ここだけではなく同様の箇所がいくつかある。確かに表記がすっきりすると思うが、「全て」という範囲をどこまで捉えるか危惧している。具体的にわかる捉え方として、こういう表記を残した。
- (委員) 「身体的変化」という表現もどうかと思う。
- (会長) 「年齢によらず」とし、「身体的変化」という言葉をとってしまえばいいのではないか。上の文章と同じ「かわらず」という言葉が続かないほうがいいと思う。
- (委員) それは検討してほしい。前回は発言したが、施策目標の生涯学習講座への参加者数を指標として載せているが、これは将来達成できているかどうかを検証することになるのだと思うが、アンケートの数値を目標にしたほうがいいのではないか。せっかくアンケート結果を載せているので、10%を20%に上げるなどの目標になるのではないか。
- (会長) この施策目標は各所にわたっているので、整合性を求めないといけない。
- (事務局) この指標については上位計画である総合計画に示されている目標となっている。総合計画に定める施策の整合性の中から、変えていくのは難しい。
- (会長) 第4章はこれでよろしいか。
- (委員) 参加させやすくするというところで、文化センターや体育館の申し込みをしやすくなるようなシステムがあったらいいという話があったが、計画では全く触れないのか。
- (会長) ずいぶん検討したが今のところ申込方法について変更はない。それぞれの場所に行って申し込む必要がある。
- (委員) 公共施設予約システムの申し込みではだめか。
- (事務局) 施設の利用ではなく事業のイベントの申し込みのことである。
- (委員) システムがあれば、イベント当日にそこに行ってくださいというだけでいいのだが、電話やFAXで申し込むしかない。スマホ世代の取り込みができているかどうか。アクセスしにくいイベントや施設が多い気がする。
- (会長) それにはもう少し時間がかかりそうである。次に29ページ「基本施策2」の「誰もが活躍できる環境づくり」について意見があれば発言いただきたい。
- (委員) 私は、推進計画がいかに市民に浸透するか、市民がいかに理念と考え方を理解して実行に移しているのかという面から考えると、この「基本施策2」が非常に重要だと思う。特に「施策3」の「市民の活躍する場の拡大」が一番重要だと思う。中身のみ

るともう少し充実するような政策、これから進める上で拡大していくような政策をとっていただければいいと思う。「学び返し」がうまくいくかどうかのポイントだと思う。文章は訂正する必要はないと思うが、内容を増やしていくような取組をぜひ前向きに進めていただきたい。それがあまりないから、アンケートでも自分の活躍する場がないと言っている。それは自分のやりたいことが表に出てきていないからで、それを拡大していくということが、成功するかどうかのカギになるだろう。

(事務局) 現在、生涯学習に関する市民の活動の場としては、生涯学習センター、そして一例として、市内の11の文化センターにおける公民館活動等で団体が活動している。今後は、それぞれの個の活動の横の連携や、市民活動の拠点となるプラッツとの連携が必要となってくる。今後、具体的に施策について検討していきたいと考えている。

(委員) 「楽しく市民が活躍する場の拡大」など、日本語として生き生きとした表現にしたほうがいいのではないか。「市民が活躍する場の拡大」だと、少し偉そうな印象を与える。

(会長) 「楽しく」を入れるといいのか。

(委員) 楽しくないから生涯学習に参加しないのだから、「楽しく」を入れた方がわかりやすくなる。

(会長) 「生き生き活躍する場」でもいいか。

(委員) 「楽しい」と「生き生き」なら、「楽しい」を提唱したい。

(会長) 検討する。

(委員) 29ページで質問がある。生涯学習ファシリテーターについて述べられているが、5ページの上から2行目、「生涯学習ファシリテーターの育成と活用が十分とはいえませんでした」と結果が述べられているが、それについてはスルーされている。活用と育成が十分でなかった反省がどこに盛り込まれているのか。その後続く文章、「第6次府中市総合計画に継承されています」がそれにあたるのか。

(事務局) 32ページの「施策1 生涯学習と地域還元をつなげる事業の実施」の取組1の「地域還元におけるボランティア活動とセットになった生涯学習事業の実施」と「生涯学習活動を行っている人の地域に返す活動を推進する制度づくり」を強化していくということで記載している。

(委員) この点に関しては、市でファシリテーター制度を制度化するという考え方はないのか。現在は養成講座を修了したところで終わっている。市がファシリテーターを委嘱するなど、制度として何か活動してもらおうという考え方はないのか。

(事務局) 活躍の場がないということはアンケート結果で明らかになっており、課題となっているところを改善していく取組が必要だと捉えている。改善されて広がりが増した時に、制度化という考え方も出てくると捉えている。

(委員) 第5章の推進体制についてもっと議論した方がいいと思う。現在の市の体制で生涯学習を推進する中心がどこにあるのかがみえてこない。文化生涯学習課を中核としつつ、実際にどのようにやっていくのか。例えば、社会教育主事という生涯学習の中心的な役割を果たすべき人材としての制度があるが、府中市はあまり有効に活用

していないのではないかと。本当はそういう方がファシリテーターとして、府中市の生涯学習をきちんと見ていかなくてはいけない。その体制が府中市は弱いと思う。

(会長) そこを具体的にどう変えればいいのか。

(委員) 生涯学習の担当課には社会教育主事を配置してほしいなど、答申できちんと表記してもいいのではないかと。

(委員) 要望ということか。

(会長) 配置してほしいという要望か。

(委員) 計画には記載できないと思うが、審議会の答申ならば載せられるのではないかと。

(事務局) 社会教育主事の雇用は人事案件なので、当課で答えることはできない。意見として頂戴しておく。

(委員) 構成として、(1)の次がア、イ、ウとなっているが、これは府中市の決まりなのか。

(事務局) 行政文章上、そういったルールとなっている。

(委員) (1)の次は だと思う。

(会長) 私もそれを提案した。

(委員) アは下位扱いなので、 にした方がいいと思う。このような構成は見たことがない。

(事務局) 文章については審査する課があるので、今の指摘も含めてチェックをする。

(委員) 結論としては、会長と副会長に一任するという事になったのか。

(会長) 事務局と正副会長に任せていただききたい。

(事務局) 基本的には今回が最後の審議となる。今日の審議会は答申案の軽微な文言の修正が目的である。今回いただいた貴重な意見は、それを踏まえて反映した形の検討をしたいと考えている。改めて見直して正副会長に見ていただき、議論に出なかった文言の修正なども正副会長に一任と捉えていただきたい。

(2) 答申について

(事務局) 皆さまに審議をいただいた、第3次府中市生涯学習推進計画素案については、本日の修正を踏まえて、10月3日に会長、副会長から教育委員会に答申していただく。資料3は答申の際、所定の書式に審議会から追加して添付するものである。委員の皆さまには資料3の内容をこの場で確認いただき、修正加筆などあれば意見をいただきたい。また答申後は、答申された計画案をもとに市が策定した計画案を教育委員会へ報告し、審議したあと文教委員協議会に報告する。その後11月下旬から約一か月間、府中市のホームページなどで計画案を公開し、パブリックコメントを実施する。パブリックコメントで市民から計画案に対する意見を募ったあと、必要な修正を行う。その後、教育委員会定例会にて計画を審議し、文教委員協議会で報告し、成案とする。最終的に策定した計画については来年3月末頃、委員の皆さまにお送りする。

(委員) 府中市の「学び返し」が国の考え方に先行して先駆的なものであったと書いている

が、少し違うのではないか。国の考え方は、地域の課題を解決するための生涯学習、これからの社会の持続可能なかたちを形成する観点からの生涯学習を言われているので、文部科学省のこれからの生涯学習に対する考え方が参考になると思う。

(会長) 他に意見はあるか。

(委員) 中段の下にある、生涯学習ボランティアが民間活力の活用になるのか。生涯学習ボランティアはあくまでも、市の事業の一つとしてやっているのだから、ここは削除してほしい。

(会長) 生涯学習ボランティアとはどういうものか。

(委員) 府中市生涯学習ボランティアが正式名称で、府中市が要請して生涯学習支援のボランティアを募り活動している。

(事務局) この文章については、調整させていただく。

6 その他

(1) 平成30年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第5ブロック研修会役割分担について

事務局より、10月27日(土)に開催される第5ブロック研修会の役割分担に関する説明が行われた。

最後に、矢部次長より挨拶が行われた。

(次長) 事務局を代表して一言お礼を申し上げたい。第11回に至るまで長くの時間、皆さまの力をお借りし、第3次府中市生涯学習推進計画の最終案を作成できたことにお礼申し上げたい。今後、市役所内、教育委員会、首長部局、市議会など様々な手続きを経たうえで、正式な計画書として公表していくという流れとなっている。まだまだ事務方としては長い手続きがかかるが、お手元に推進計画がきちんと届くよう努力する。また来年度からは作成した計画に基づいて、第6次府中市総合計画でめざす都市像で掲げる「みんなで創る 笑顔あふれる 住みよいまち」の実現について施策を積極的に推進していく。今後とも生涯学習の行政に対してご理解ご協力ご指導をいただければと思う。ありがとうございました。